

日本旧石器学会

ニュースレター 第15号

NEWS LETTER No.15

JAPANESE PALAEOLITHIC RESEARCH ASSOCIATION

第8回日本旧石器学会の開催

2010年6月26日・27日に東京都の明治大学駿河台校舎リパティータワーにおいて、第8回日本旧石器学会が開催され、総会、一般研究発表、シンポジウム「旧石器研究の諸問題ー日本列島最古の旧石器を探るー」ならびにポスターセッションが行われた。

総会は白石浩之会長の挨拶から始まった。今年は旧石器ねつ造事件発覚から10年目にあたり、日本旧石器学会は更なる信頼回復に努めることが必要だと呼びかけた。国際的には日本、韓国、中国、ロシアにより設立されたアジア旧石器協会（APA）の日本の窓口として活動していることが紹介された。他に旧石器遺跡データベースの刊行、九州旧石器文化研究会と共同で開催した2009年度大会、2回から3回に増やされたニュースレターの刊行、広報委員会によるホームページの開設と小学校社会科教科書に対する当学会の取り組みが紹介された。

出席者と委任状総数が会員の1/5以上で会則に基づき総会が成立したことが報告され、事務局の推薦により阿部朝衛氏が議長に選出された。議事は委員会報告、審議の順番で進められた（詳しい内容についてはP3～7を参照）。

続いて選挙管理委員会の田代委員長より2009年度に実施された役員選挙の結果が説明され、白石会長の推薦による小野昭新会長をはじめとする新役員構成案が示され、採決により承認された。

小野新会長は会成立から7年たち枠組みができあがったと同時に浮き上がった問題点を3つにまとめた。①地域研究との連携が必要であり、最も重要な事である。②関係諸科学との連携、③国際的研究組織との連携をあげ、アジア旧石器協会を若い研究者が世界へと発信するゲレンデにしたいと述べた。

続いて池谷信之氏による「旧石器時代における陥穴猟と石材獲得行動」と西秋良宏氏による「西アジア前期旧石器時代の剥片石器群ーシリア、デデリエ洞

窟出土ヤブルディアン資料にふれて」の2つの研究発表が行われた。池谷氏は愛鷹・箱根山麓のB B III層下位～B B III層中期期に見られる黒曜石の産地変化及びナイフ形石器の形態変化は、陥穴猟による生業活動の変化の現れとの考えを示した。

西秋氏はシリア、デデリエ洞窟の新標本にふれながら、ヤブルディアンを中心とする前期旧石器時代末の剥片石器群の問題を検討した。ヤブルディアンは斜軸剥片のスクレイパーを特徴とする石器群で、中期旧石器にはルヴァロア一色となるが、ムステリアンとはつながらないという。先行する系統の石器群も定かではなく、その前後のつながりの解明が課題となっている。

シンポジウムは26日午後2時過ぎから、27日午後4時前にかけて行われた。最初に「前期旧石器時代」の存否と日本列島最古の石器群」と題する安藤政雄氏の基調講演があった。「前期旧石器時代」存否の論争の経緯と今も生き続ける課題が指摘され



写真1 小野新会長の挨拶

た。また、旧石器時代の朝鮮半島との比較による日本列島最古の石器群を探る視点が提示された。

伊藤健研究企画委員長からの趣旨説明では①最古かどうか、②石器かどうかの2つのポイントと、シンポジウムでの各基調報告の位置づけの説明があった。その後、「石器認定をめぐる諸問題」山岡拓也氏、「40ka以前の遺跡と石器群に関する諸問題」島田和高氏、「前・中期旧石器時代の石器製作技術」長井謙治氏、「後期旧石器時代初頭石器群からみた最古の旧石器の諸問題」諏訪順氏、「東アジアにおける前期旧石器の諸問題」松藤和人氏、「九州における最古の石器群について」鎌田洋昭氏の基調報告が行われた（基調報告の内容は予稿集を参照していただきたい）。

基調報告に対して、稲田孝司氏と比田井民子氏のコメントがあった。稲田氏は石器の認定にあたり、長崎県入口遺跡と島根県砂原遺跡（遺物見学会展示資料）の玉髓・メノウ製の資料を素材に、自らのスケッチ図と報告書の実測図や写真とを比較しながら自然破砕の特徴を示し、石器ではないという考えを提示した。そして、偽石器の疑いがある石器について研究者みんなが1つ1つ検討し、意見を出し合い問題点を浮かび上がらせる必要があるとした。比田井氏は学校教科書に旧石器時代が掲載されなくなった厳しい現状の中、アジアの中で日本の前・中期から後期の流れの枠組みを示す必要を指摘した。

パネルディスカッションは白石浩之氏と伊藤健氏の司会、基調報告者がパネリストとなり進行された。1. 石器の認定をめぐる問題、2. 東アジアから見た日本列島最古の石器群の評価、3. 酸素同位体ステージ3と日本列島最古の石器群の位置づけ、4. 展望と課題の4つのテーマとなった。

石器認定をめぐる問題は山岡氏より遺跡の自然形成過程を再構成しなくてはならないとの指摘があった。自然現象による剥離のメカニズム等の分析例が少なく、比較資料が不足していることがあげられた。長野県竹佐中原遺跡の石器に見られる鈍角剥離の分析を行い、人為的加工との判断を示した長井氏も、すべての鈍角剥離に対して、自然でできることを否定した訳ではなく、実験的なデータの蓄積の必要性を指摘した。松藤氏は稲田氏のコメントに対する反論として、砂原遺跡の玉髓製石器の観察認定の説明を行い、自然では極めて希であり、古土壌からの出

土等から石器として認定したとの説明を行った。

東アジアの前・中期旧石器は、中国や韓国にみられる石英岩製の石器が研究の中心となっており、日本の珪質石材と違うことが松藤氏と加藤真二氏から指摘された。また、石英岩製の石器の観察には修練や経験が必要との意見が、竹岡俊樹氏、柳田俊雄氏から出された。

酸素同位体ステージ3との位置づけについては、武蔵野台地X層の石器群がキーとなった。これを「移行期」として捉えるのか否か、また「移行期」があるのかないのかが議論となった。また、竹佐中原遺跡の石器群と長井氏が注目した鈍角剥離についても議論されたが、鈍角剥離の意味・意図の解明と、更なるデータの蓄積が必要との意見が出された。

展望と課題で菊池強一氏はねつ造事件関連遺跡の調査では生活面を堆積学的に認識することが欠けていたとし、岩手県金取遺跡での実践例を説明した。佐藤宏之氏は石刃と台形様石器の登場をもって後期旧石器として捉える考えを示し、解剖学的に古い新人との関係が注目されるとした。石器認定の問題では偽石器に関する国内最初の報告となった青森県金木の経験を学会全体で共有して取り組めないかとの意見が出された。春成秀爾氏や柳田俊雄氏も公の場で議論することが必要との意見を述べ、小野会長からは議論の場を設けたいとの考えが出された。

別室ではポスターセッション10本と、遺物見学会が行われた。遺物見学会では長野県竹佐中原遺跡、熊本県大野遺跡群他の石器が展示されたが、特に注目されたのが学会の場で初の公開となった島根県砂原遺跡の資料であった。（谷記）

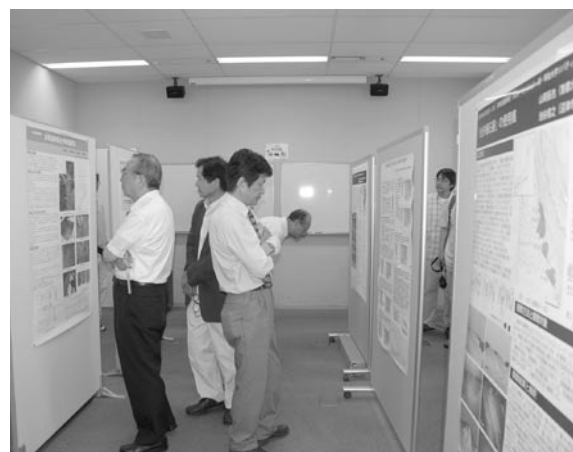


写真2 ポスターセッション会場

2009 年度委員会報告

総務委員会 2009 年度の総務委員会の活動は以下の (1) ~ (8) の通り。

- (1) 2009 年度総会に関する資料の作成・会場設営・連絡調整
・総会：2009 年 6 月 27 日 (土) 鹿児島県立埋蔵文化財センター
- (2) 役員会に関する資料の作成・会場設営・連絡調整
・役員会：2009 年 5 月 30 日 (土) 早稲田大学 14 号館 804 会議室
・役員会：2010 年 5 月 22 日 (土) 国士舘大学世田谷校舎 10 号館 2 階 217 教室
- (3) 委員会間の調整・連絡
- (4) 会誌 (「旧石器研究」5 号)、ニュースレター (12・13・14 号)、各種学会連絡文書の発送
- (5) 日本考古学協会総会図書交換会等、シンポジウム予稿集及び「旧石器研究」の頒布
・図書交換会：2009 年 5 月 31 日 (日)
・会誌発送：2009 年 7 月 27 日 (月)
- (6) 新入会員の拡大、入会・住所変更等に関する事務
なお、本年度の新入会員は 4 名であり、2010 年 4 月現在の会員数は、231 名である。
- (7) 2010 年度総会・講演会・シンポジウム会場となる明治大学との協議
- (8) 2010 年度役員選挙に関する事務
・公報発送：2010 年 1 月 16 日 (土)
・開票作業：2010 年 2 月 27 日 (土)

2009 年度には、学会の活動も広がりを見せてきたことから、総務が支援する内容も多岐に渡るようになった。役員会の資料作成や各種連絡・調整のほか、総務委員会が支援した主な活動は次の通り。広報委員会による学会ホームページの立ち上げと運営、教科書問題に関する勉強会、子ども向けワークショップの開催など。渉外委員会と APA 副会長、同執行委員が中心となって始動した 2011 年度第 4 回 APA 日本大会準備委員会の支援。2010 年度学会シンポジウム企画について研究企画委員会への支援。その他、第 2 回 APA 北京大会へ島田総務委員長が参加した。

研究企画委員会 研究企画委員会は、研究発表の場の設営、シンポジウムの企画立案・運営の取り組み、その研究活動について責任を負っている。

日本旧石器学会では、地域研究の発展と各地域研究会との連携強化を図るため、各地域研究会との共同開催を企画することとした。

その趣旨に基づいて、2009 年 6 月 27・28 日の 2 日間、鹿児島県立埋蔵文化財センターにおいて、九州旧石器文化研究会と共同で、記念講演、一般研究発表、ポスターセッション、シンポジウム、遺物見学を実施した。

内容は以下のとおりである。

- 1 日時 2009 年 6 月 27 日 (土) 12:30-17:45

28 日 (日) 9:30-15:00

- 2 場所 鹿児島県立埋蔵文化財センター (鹿児島県霧島市)
- 3 総会 6 月 27 日 (土) 12:30-13:20
- 4 一般研究発表 6 月 27 日 (土) 13:30-15:00
「福井洞窟、直谷稲荷神社岩陰の発掘調査報告」川内野篤、「西アジア終末期旧石器時代の竪穴住居—シリア、デデリエ洞窟出土ナトゥーフアン建築を中心に」西秋良宏ほか、「微細石製遺物密集部の偏在に基づいた集中部分析について」絹川一徳、「押圧による細石刃剥離のための押圧具と固定具の復原—北海道白滝遺跡群の細石刃技術に関する技術学的分析—」大場正善
- 5 記念講演 6 月 27 日 (土) 15:25-16:15
「南九州の環境変遷史」井村隆介
- 6 シンポジウム 南九州の旧石器時代石器群—「南」の地域性と文化の交錯—
6 月 27 日 (土) 16:15-16:25
6 月 28 日 (日) 9:30-15:00

趣旨説明 日本旧石器学会研究企画委員会
基調報告

「南九州の後期旧石器時代前半期石器群について」鎌田洋昭、「南九州のナイフ形石器文化後半期石器群について」馬籠亮道、「列島南辺における細石刃石器群の成立と展開—畦原と加治屋園にみる地域性—」松本 茂、「韓半島—九州の旧石器時代石器群と文化の交錯」張 龍俊、「南アジアの後期旧石器時代：石器群と前後期との画期を焦点にして」西村昌也

コメント 宮田 剛、杉原敏之、杉山真二、木崎康弘、佐藤宏之

パネルディスカッション

7 ポスターセッション

「今峠型尖頭形剥片石器の生産過程」阿部 敬、「日本列島における出現期石鏃の伝播と系統」及川 穰、「港川フィッシャー遺跡出土の後期更新世人類の下顎骨について」海部陽介ほか、「港川人下肢骨と縄文人下肢骨の比較」藤田祐樹ほか、「旧石器遺跡の年代推定に関連するテフラの熱ルミネッセンス (TL) 年代測定」下岡順直ほか、「植刃器製作実験とその可能性」芝康次郎ほか、「韓国における旧石器考古学の新進展」中川和哉ほか、「中国における旧石器考古学の新進展」麻柄一志・松藤和人、「気候変動・火山灰層序・地形発達・放射年代による後期更新世／後期旧石器時代の編年」野口 淳、「古本州島における国府系石器群の広域展開とその背景」森先一貴、「愛知県宮西遺跡をめぐる遺跡形成」白石浩之ほか、「立川ローム層下部石器群と火山灰降下物」比田井民子・上條朝宏

8 遺物見学会

鹿児島県・宮崎県を中心とした九州地方の資料あわせて、このための予稿集「日本旧石器学会第 7 回講演・研究発表・シンポジウム予稿集 南九州の旧石器時代石器群—「南」の地域性と文化の交錯—」を刊行した。

会誌委員会 2009年度は『旧石器研究』第6号の編集、刊行を行った。

2008年度の旧石器学会鹿児島大会後、発表者への執筆案内を研究企画委員会を通じ依頼する方針を決定し、案内を送付した。しかし、執筆の受諾が少なかつたため、6号ではシンポジウム特集は組まない形をとることとした。あわせて投稿原稿を募集し、査読の依頼などを含み、編集作業を行い、下記の内容で刊行した。

巻頭言 安蒜政雄 節目の年

解説 熊井久雄 最近の第四紀年代層序問題(その2)
第四紀細区分問題

原著論文 「「台形様石器」の欠損資料—日本列島の後期旧石器時代前半期における現代人的行動の一事例—」山岡拓也、「旧石器時代後半期の槍先形狩猟具—組み合わせ道具からみた試論—」白石浩之、「有柄尖頭器・国府型尖頭器・三稜尖頭器—狩猟具形態の構造と地域社会の構造変動—」須藤隆司、「九州東南部における角錐状石器の出現と展開」馬籠亮道

研究ノート 「韓半島細石器石器群における作業工程の復元と遺跡構造についての一考察」大谷薫

資料紹介 「群馬県太田市八ヶ入遺跡出土の削片系細石器群」関口博幸

書評 「石器からみた「縄文時代草創期」—二冊の著作から—」仲田大人

報告 「報告 日本旧石器学会 第7回講演・研究発表・シンポジウム「南九州の旧石器時代石器群—「南」の地域性と文化の交錯—」」岩谷史記

委員会活動報告等

データベース委員会 本学会創立以来の懸案であった「日本旧石器(先土器・岩宿)時代遺跡のデータベース作成事業」については、2010年5月14日に『日本列島の旧石器時代遺跡—日本旧石器(先土器・岩宿)時代遺跡のデータベース—』を印刷・刊行し、事業計画をおおむね達成した。印刷は500部で、CD付録付きである。

(1) 遺跡データの集成と修正: 遺跡データについては、2009年2月末時点で39都道府県から10854件の遺跡/文化層データが寄せられていた。これは2005年2月に集成作業を各都道府県代表者に依頼して以降4年間に蓄積されたもので、未提出県がのこる一方、提出データにも具体的記載がない見込みデータ数や地域的な脱落、未記載項目等が多く含まれ、新発見遺跡も増えていた。そこで2009年6月から各都道府県のデータ内容に即して修正・補足を依頼し、希望の県にはデータの追加をお願いした。同年10月末日をもってこの作業をいったん打ち切ったが、その後、印刷本の編集作業が進む過程でも部分的に遺跡/文化層データが増え、最終的な印刷本収録データ数は16771件となった。

(2) 印刷本の作製過程: ①2009年11月から印刷本編集の具体的な作業に入り、執筆要項の作製や執筆者の選考、県別遺跡分布図の試作等をおこなった。同年12月末、都道府県代表者には遺跡データ解説文を執筆するよう試作の県別遺跡分布図を付して依頼し、時期別解説文の執筆者にも同様の依頼をした。

②印刷用の遺跡一覧表作製については、2009年11月以降、印刷頁を減らしかつ印刷項目を増やすための試作を重ねたが、遺跡解説文の執筆時に都道府県からデータ増や項目記載内容の変更が多数寄せられたほか、座標の点検・照会や文献名の圧縮等にも相当の時間を要し、作業は容易に進まなかった。データ保護の必要やデータ内容のある程度の均質さ維持のために担当者を限らざるをえない事情があったにしても、特定担当者に負担がかかり過ぎたことは、今後のDB修正・更新等においても教訓とすべき点であろう。印刷用の遺跡一覧表作製で調整されたデータは順次遺跡分布図作成担当者へ送付され、そこで地図画像と遺跡分布との県別合成図を作製し、最後にデジタル編集担当者が印刷用に編集し、付録CDを仕上げた。

③都道府県遺跡解説文作成の折、遺跡/文化層数(=データ数)や時期別遺跡数の集計を依頼した。その結果を全国集計したところ、今回の印刷本収録の遺跡/文化層数(ID数)は16771件、旧石器時代遺跡数は約10200遺跡、縄文時代草創期遺跡数は約2400遺跡等となった。同時に特定器種を含む遺跡/文化層数を委員会独自で集計し、当該文化期を理解するうえで目安となる12項目の遺跡数を集計した。文献一覧表データ数は9141件であった。

④今回のDB作製関係者は、新旧DB委員会委員11名、DB委員以外の都道府県責任者49名、データ入力地域分担者119名の計179名であり、印刷本については他に執筆者・英文翻訳協力者計5名が協力した。本学会内外の上記関係者には印刷本1冊を献呈した。

⑤印刷本編集はすべてDB委員によるデジタル編集とし、印刷経費節減に努めた。2009年5月から予定頒価を広告して予約を募り、2010年1月からは頒価を6500円(割引頒価は5500円)と確定して代金振り込みの予約を募った。

ニュースレター委員会 2009年度はニュースレター第12号、第13号、第14号の編集・発行を行った。

第12号は2009年6月に鹿児島県霧島市鹿児島県埋蔵文化財センターで開催した第7回日本旧石器学会の報告ならびに2008年度委員会活動報告、2009年度委員会活動計画などの定例報告とともに、役員選挙のお知らせ、『日本列島の旧石器時代遺跡—日本旧石器(先土器・岩宿)時代遺跡のデータベース—』の刊行予定案内、関連学会情報などを掲載した。

第13号は2010年1月に発行した。最近の研究動向の紹介として、栃木県高野山黒曜石原産地遺跡群の調査成果について奈良文化財研究所の国武貞克氏に執筆を依頼した。高野山黒曜石は石材産地分析等に基づき、旧石器時代に関東地方を中心に広く利用されたことが知られ、原産地に遺跡の存在が推定されていたが、長い間確認は行われていなかった。2005年田村隆(千葉県立中央博物館)氏や著者の国武氏らによって遺跡が確認され、2006年度から矢板市教育委員会によって5ヶ年計画で調査が行われており、多くの成果が得られていることから、調査委員である国武氏に2008年度までの成果の概要を紹介していただいた。また、第2回アジア旧石器協会が2009年10月に中華人民共和国北京で開催されたことから、大会参加記を日本旧

石器学会副会長の比田井民子氏に、役員報告を渉外委員長の小畑弘己氏にお願いした。この他に、旧石器時代関連施設、整備遺跡の紹介を新たに企画し、第1回として相模原市教育委員会に史跡田名向原遺跡とガイダンス施設「旧石器ハテナ館」を紹介していただいた。この他、お知らせとして、データベース印刷本『日本列島の旧石器時代遺跡』頒布案内、学会ホームページ開設のお知らせを掲載した。

第14号は2010年4月に発行した。旧石器時代関連学会の研究の現状と課題を紹介する企画の第2回として14C年代測定法を取り上げ、(株)加速器分析研究所の山田しよう・三原正三・小原圭一の3氏に執筆していただいた。この他に、日本における2009年度の旧石器時代遺跡調査動向、2010年1月に実施された役員選挙結果、お知らせとして、第8回旧石器学会のお知らせなどを掲載した。

今年度から当面、ニュースレターの発行を年3回とし、紙面の充実と速報性の強化を図ることとした。これまで、紙幅の関係から研究発表やシンポジウム報告のスペースを十分とることができなかったが、年度最初の号を学会開催報告号とし、シンポジウムの様子を参加できなかった会員にもある程度伝えることができるようになった。一方、年度後半刊行の号は、これまで不定期に掲載してきたテーマについてある程度固定枠として振り当てることができるようになり、一つを最近の調査・研究の動向、一つを関連学会の研究の現状と課題、研究史的な回顧と展望にあてることとした。この他に、発掘調査ニュース、地方研究会、関連学会開催情報などは適宜掲載する予定である。また、各地の旧石器関連施設、保存・整備遺跡などについても紹介したいと考えている。

広報委員会 第1回広報委員会：於2009年8月22日明治大学博物館。勅使河原彰氏を講師に「社会科教科書問題」に関連し戦後の社会科教科書変遷と、教科書検定制度等の勉強会を実施。あわせてホームページの開設の準備・検討を実施。

第2回広報委員会：於2009年10月31日明治大学博物館。「社会科教科書問題」に関連し、日本考古学協会社会科教科書問題検討小委員会との連携について協議。小学生対象のワークショップの開催と、ホームページについての打ち合わせ。

「第1回の子供のためのワークショップ」：於2010年1月23日14:00～16:30 明治大学博物館(共催者)にて実施。

白石浩之「キュウセッキ(旧石器)ってなに？」

小菅将夫「石器をつくって、つかってみよう！」

島田和高「赤土から出てきた石器をみてみよう！」

上記内容は、白石氏のレクチャー、小菅氏の石器の製作実験、島田氏の展示解説からなり、保護者3名、子供4名が参加。

第3回広報委員会：於2009年11月28日日本考古学協会事務局。日本考古学協会社会科・歴史教科書等検討委員会(以下日考協検討委員会)との第1回打ち合わせ。同検討委員会の大竹幸恵氏から、日本考古学協会の取り組み状況聞き、旧石器時代に関連する事項について両者の連携を協議した。

第4回広報委員会：於2010年2月14日岩宿博物館。日考協検討委員会と第2回打ち合わせ。日考協検討委員会と当広報委員会との間で今後の協力関係を確認。2010年度日本考古学協会総会社会科教科書問題シンポジウムで、旧石器時代関係のパネリストの人選を相談。

第5回広報委員会：於2010年4月17日日本考古学協会

日本旧石器学会 2009年度決算内訳

単位：円

収 入				
費 目	予算額	決算額	増 減	摘 要
1 会費収入				
会費収入	1,410,000	1,031,000	-379,000	04-05年度1名、06年度4名、07年度6名、08年度37名、09年度141名、10年度12名、11年度3名、12年度1名、13年度1名(合計206件+不足分納入1件1,000円)、会費未納者54名(延べ97名)
2 その他の収入				
会誌頒布代金	350,000	128,000	-222,000	会誌5号12部、バックナンバー20部
シンポジウム予稿集頒布代金	300,000	218,400	-81,600	予稿集7号126部、バックナンバー26部
前期仮払金	50,000	50,000	0	09年度総会準備金
前受金	0	297,000	297,000	D B申込金(会員等41部、一般11部)
雑収入	0	2,000	2,000	子供WS参加費4名分
前期繰越収支差額	1,365,932	1,365,932	0	
小計①	3,475,932	3,092,332	-383,600	
支 出				
費 目	予算総額	決算額	増 減	摘 要
会議費・会場設営費	80,000	28,220	-51,780	役員会等会議費、考古学協会図書交換会卓代
旅費交通費	125,000	70,800	-54,200	総会シンポジウム発表者交通費補助、他
通信運搬費	150,000	147,810	-2,190	会誌・ニュースレター送料、諸通知、役員間連絡、他
消耗品費	50,000	26,657	-23,343	事務用品、コピー、他
印刷製本費	1,956,000	1,187,000	-769,000	会誌、予稿集、ニュースレター3件
諸謝金	85,000	20,000	-65,000	講演料
委託費	60,000	100,630	40,630	H.P. 立上げ及び管理、翻訳料
雑費	20,000	22,385	2,385	雑費(銀行手数料等)
予備費	949,932	0	-949,932	予備費、他
小計②	3,475,932	1,603,502	-1,872,430	
次期繰越金小計①-小計②	0	1,488,830	1,488,830	

事務局。日考協検討委員会と第3回打ち合わせ。2010年度日本考古学協会総会シンポジウムで旧石器時代に関して、中村由克、白石浩之氏の発表が決定。

ミニシンポジウム「子ども達に旧石器・縄文時代をどう伝えるか—小学校の教科書で教えたい旧石器・縄文時代—」：於2010年5月23日国土館大学世田谷校舎第76回日本考古学協会の同シンポで、中村由克、白石浩之氏がパネリストとして登壇。

2009年12月日本旧石器学会ホームページの開設。

入会審査委員会 入会審査委員会は、会則・運営細則にもとづき「論文・研究ノート・調査報告等を公表した者」という基準により、入会審査を行った。2009年度（2009年4月1日～2010年3月31日）の新入会員は以下の4名の方々である（敬称略・都道府県別）。

鹿又喜隆（宮城県）、松井 泉（神奈川県）、高橋秀光（愛知県）、越知睦和（熊本県）

渉外委員会 2009年度の渉外委員の活動は、主にAPA（アジア旧石器協会）関連のものであった。中国北京市で10月に開催された第2回APA大会へ、APA執行委員および日本旧石器学会渉外委員として小畑弘己が参加し、本年度10月に韓国で開催予定の第3回APA大会の準備にむけての協議およびAPA関連の議題を審議した。また、前半期はこの第2回大会への案内の回状や高星大会委員長との交渉などの準備を総務委員の島田氏とともに行った。

後半期においては、2009年9月25日に2011年に日本で開催予定の第4回APA大会へ向けての準備委員会を明治大学博物館会議室にて開催した。APA執行委員として小野昭氏および小畑弘己氏、日本旧石器学会渉外委員として鈴木美保氏、同総務委員として島田和高氏が参加した。協議の結果、国立科学博物館記念行事および日本旧石器学会2011年度大会と同時開催（2011年6月開催予定）を希望とし、エクスカッションは東京近郊とすることとなった。その後、APA小野執行委員によって、国立科学博物館との協議が行われ、希望どおり、同時開催が了承された。

2010年度活動計画

総務委員会 2010年度・新役員体制における円滑な委員会活動の支援、2011年APA日本大会および総会開催に向けた準備支援、広報委員会と連携した広報体制の確立。以上の3つを計画している。

研究企画委員会 本学会の発足の契機となった「前・中期旧石器捏造発覚」事件から10年にあたり、シンポジウム「旧石器時代研究の諸問題—列島最古の旧石器を探る—」を企画する。

また2011年度は、総会時に第4回アジア旧石器協会日本大会が開催される。その研究事業に、研究企画委員会として参画する。

会誌委員会 『旧石器研究』第7号の編集、刊行を行う。

日本考古学協会の図書交換会での販売が可能な時期の刊行

を目指し、編集作業を行う。会員諸氏の積極的な投稿をお願いする。

データベース委員会 印刷本に残部が生じた場合は、その頒布を完了させる。日本旧石器学会による直接頒布の場合は、従来通り頒価6500円、割引頒価5500円（ともに送料は学会負担、割引対象者は学会会員またはDB作成都道府県責任者・DB入力地域分担者）とし、学会宛代金振り込みによる方法（郵便振替口座番号00180-8-408055、日本旧石器学会。但し、2010年7月31日で終了）と、日本旧石器学会総会会場および日本考古学協会図書交換会会場での頒布の方法とによる。さらに残部がある場合は、2010年8月1日以降、特定書店での委託頒布を行う（頒価6500円に消費税・送料等を加算した頒価となり、割引頒価はなし）。なお、2010年度からの頒布は、総務委員会と会計委員会が中心となる。

また、印刷本の校正をおこない、必要な場合はホームページに掲載する。

③遺跡DBの維持・更新・オンライン化や文献データのID化等、DBに関する今後のあり方について検討する。

ニュースレター委員会 年3回（第15～17号）のニュースレターの刊行を行う。昨年度は第2回（第13号：1月末）と第3回（第14号：4月中旬）の刊行間隔が短く、第3回の原稿依頼や編集作業が窮屈な状況であったことを踏まえて、第1回（第15号）を2010年8月末、第2回（第16号）を12月中旬、第3号（第17号）を4月中旬に刊行したい。

各号の大まかな内容を年度当初に決定し、できるだけ早い段階で執筆予定者に原稿依頼を行う。第15号は総会・シンポジウム報告、第16号は最近の調査研究動向、第17号は関連学会の研究の現状と課題や2010年度の国内調査動向などを予定したい。

広報委員会 ホームページを立ち上げた昨年度は総務委員会と共同で運営を進めたが、軌道にのったため、本年度より広報委員会が運営。ホームページの運営公開事業として①従来のコンテンツの情報更新、②新規コンテンツの設置。新規コンテンツでは『日本列島の旧石器時代遺跡』として代表的な遺跡の紹介し、データベースPRを兼ね遺跡分布を一部公表する。また、「社会科教科書問題」に関連し小学生のための旧石器時代理解を促すため、ホームページ上の旧石器時代の解説を設置。

普及・公開事業として8月1日（日）に長野県伊那市創造館にてフォーラム「世界の中の神子柴遺跡 氷河時代の狩猟民の世界」を小野昭会長・春成秀爾氏・堤広報委員長をパネリストとして実施。フォーラムは伊那市創造館、上伊那考古学会との共催事業。

教科書問題に対応し、以下の①～④の事業を行う。

①日本考古学協会ほか他のワーキンググループと連携し対応を協議検討する。

②子ども石器作りワークショップ開催（8月1日伊那市創造館）

③小学生に旧石器時代を周知するチラシ等の作成準備

④HP上に小学生のための旧石器時代解説を設置。

入会審査委員会 引き続き新入会員の審査を行う。

渉外委員会 総務委員会の協力のもと APA 執行委員と共に 2011 年度に開催される第 4 回アジア旧石器協会日本大会の準備を進める。

第 4 回アジア旧石器協会については以下の計画を検討している。

1. 主催 日本旧石器学会・国立科学博物館 (APA はサーキュラータイトルに入れる)
2. 後援予定 日本考古学協会・日本第四紀学会・日本人類学会
3. 会場 国立科学博物館 上野本館講堂ほか
4. 開催形態 第 4 回アジア旧石器協会日本大会を独立したセッションとして組み込む。
タイトル (仮): アジアにおける近年の旧石器研究の進展 Recent Progress of Palaeolithic Research in Asia
小テーマ: 環境と人間 Palaeoenvironment and humans、行動学的戦略と石器技術 Behavioral strategy and lithic technology、古人類学の証拠と人類進化 Palaeoanthropological evidence and human evolution
5. 会期 2011 年 6 月 25 日 (土) ~ 30 日 (木)
24 日 (金) 海外参加者到着、25 日 (土) JPRA 総会・登録・一般向け講演会、26 日 (日) 第 4 回 APA 大会、27 日 (月) エクスカーション (候補: 静岡・神奈川・長野・群馬等の東京近郊日帰りバスツアー)、28 日 (火) ~ 30 日 (木) 会議
6. 共同主催テーマ (仮) 旧石器時代のアジアにおける現代人的行動の出現と多様性 Emergence and Diversity

of Modern Human Behavior in Palaeolithic Asia

2010・2011 年度役員会

役員選挙の結果に基づいて 2010 年 6 月の総会の承認を得て第 4 期役員による役員会が発足しました。役員会および各委員会の構成は以下のとおりです。

- 会 長: 小野 昭 (APA 副会長候補)
副会長: 麻柄一志
総 務: *島田和高 諏訪間順 (兼) 鈴木美保
ニュースレター: *谷 和隆 山原敏朗 沖 憲明
会 誌: *出穂雅実 亀田直美 吉川耕太郎
門脇誠二 (委嘱) 岩瀬 彬 (委嘱)
研究企画: *野口 淳 宮田栄二 諏訪間順 (兼) 山岡拓也 (委嘱)
渉 外: *佐藤宏之 (APA 執行委員候補) 加藤真二 (APA 執行委員候補) 阿子島香 出穂雅実 (兼) 門脇誠二 (委嘱) 山岡拓也 (委嘱)
データベース: *小菅将夫 光石鳴巳
会 計: *鈴木次郎 栗原伸好 (委嘱)
入会審査: *諏訪間順 島田和高 (兼)
広 報: *堤 隆 西井幸雄 加藤勝仁
会計監査: 荒井幹夫 御堂島正
顧 問: 赤羽貞幸
(*は委員長)

日本旧石器学会 2010 年度予算内訳

単位: 円

収 入				
費 目	予算額	前年度予算額	増 減	摘 要
1 会費収入				
会費収入	1,570,000	1,410,000	160,000	(前納者 14 名を除く会員 217 名) × 5,000 円、 (遡及分延べ 97 名) × 5,000 円
2 その他の収入				
会誌頒布代金	480,000	350,000	130,000	30 部 *4000 円 =120,000 円、バックナンバー及び委託販売分 360,000 円
シンポジウム予稿集頒布代金	410,000	300,000	110,000	会員頒布 75 部 *1,200 円 =90,000 円、一般頒布 80 部 *1,500 円 =120,000 円、バックナンバー及び委託販売分 200,000 円
D B 頒布代金	740,000	0	740,000	会員等頒布 40 部 *5,500 円 =220,000 円、一般頒布 80 部 *6,500 円 =520,000 円
仮払金	0	50,000	-50,000	
前期繰越収支差額	1,488,830	1,365,932	122,898	
小計①	4,688,830	3,475,932	1,212,898	
支 出				
費 目	予算額	前年度予算額	増 減	摘 要
会議費・会場設営費	80,000	80,000	0	役員会会議費、総会会場設営費、他
旅費交通費	150,000	125,000	25,000	役員会旅費補助、国際会議旅費補助、発表者旅費補助、他
通信運搬費	250,000	150,000	100,000	会誌・ニュースレター送料、諸通知、役員間連絡、校正連絡、他
消耗品費	50,000	50,000	0	事務用品、コピー、他
印刷製本費	2,436,000	1,956,000	480,000	会誌、予稿集、ニュースレター 3 通、D.B.、他
諸謝金	50,000	85,000	-35,000	臨時事務補助謝金、講演発表謝金、他
委託費	63,000	60,000	3,000	H.P. 管理委託
雑費	25,000	20,000	5,000	雑費 (銀行振込手数料他)
予備費	1,584,830	949,932	634,898	予備費、他
小計②	4,688,830	3,475,932	1,212,898	
小計①-小計②	0	0	0	

関連学会情報

信州黒曜石フォーラム 2010・第20回長野県旧石器文化研究交流会—中部高地石材原産地と消費地をめぐる諸問題—

主催：信州黒曜石フォーラム実行委員会・長野県旧石器文化研究交流会・野尻湖ナウマンゾウ博物館

日程：2010年10月2日（土） 13:00～16:30

2010年10月3日（日） 9:30～13:00

会場：信濃町総合会館 信濃町大字柏原 2645-1
電話 026-255-3135 信越本線黒姫駅下車，徒歩数分

参加費（資料代込み）：1,000円（申し込み不要）

宿舎・懇親会：藤屋旅館 TEL026-258-2514 長野県上水内郡信濃町野尻 258-5 宿泊費（懇親会+朝食付き）11,000円 申し込み先：野尻湖ナウマンゾウ博物館 FAX：026-258-3551 e-mail：nojiriko@avis.ne.jp

締め切り 2010年9月24日

事務局：明治大学黒曜石研究センター

TEL：0268-41-8815

e-mail：meiji-ob@kokuyou.ne.jp

プログラム

10月2日（土）13:00～16:30 基調報告1～6

基調報告1：野尻湖遺跡群における黒曜石産地推定分析データの集成と解析 谷 和隆

基調報告2：信州産黒曜石原産地における原石産状と石材獲得のあり方について 大竹憲昭

基調報告3：栃木県高原山黒曜石原産地における原石産状と人類遺跡 国武貞克

基調報告4：諏訪湖底曾根遺跡と黒曜石原産地をめぐる地域文化の形成過程 及川 穰

基調報告5：縄文草創期前半から後半にかけての石器石材利用について—野尻湖周辺及び新潟県の事例から— 橋詰 潤

基調報告6：石器製作行動と黒曜石の流通—関東地方の石器群の状況から考える— 小菅将夫（岩宿博物館）

16:50～18:00 資料見学 特別展「オノの石、ヤリの石」（野尻湖ナウマンゾウ博物館）

10月3日（日）9:30～10:15 講演会

石材の流通—見えないものをどう捉えるか 小野 昭

10:25～11:25 基調報告7・8

基調報告7：旧石器時代における石斧の石材原産地・採集地の推定 中村由克

基調報告8：旧石器時代初頭における石斧の形態と機能 須藤隆司（佐久市教育委員会）

11:35～13:00 総合討論

石器文化研究会設立25周年記念シンポジウム「ナイフ形石器・ナイフ形石器文化とは何か—概念と実態を問い直す—」（予告）

2011年1月22～23日（22日：9:40～17:00、23日：9:00～17:00）、明治大学駿河台校舎リパティタワー 8F 1081 教室

第1部 ナイフ形石器・ナイフ形石器文化とは何か—研究史・現状・課題—

第2部 枠組みと構造—分析の視座と展望—

第3部 ナイフ形石器・ナイフ形石器文化を問い直す1—各地の実相から—

第4部 ナイフ形石器・ナイフ形石器文化を問い直す2—新たな地平を目指して—

※詳細は石器文化研究会 HP をご参照下さい。

URL <http://www.sekki.jp>

おしらせ

会費納入のお願い

日頃より日本旧石器学会の運営につきまして御理解、御協力をいただき、ありがとうございます。日本旧石器学会では会費は前納を原則として運営をさせていただいております。会費未納の方々につきましては、速やかに所定の会費の支払い手続きをなされますようお願い申し上げます。年会費 5,000円 で、振込先は、日本旧石器学会 郵便振替番号 00180-8-408055 です。

編集後記

今年度から、新たなメンバーでニュースレターを編集することとなりました。年3回の刊行を滞ることなく行いたいと考えております。より充実した誌面とするために、会員の皆様の御意見等寄せていただければ幸いです。（谷）

日本旧石器学会ニュースレター

第15号

2010年9月1日発行

編集：日本旧石器学会ニュースレター委員会

谷 和隆・山原敏朗・沖 憲明

発行：日本旧石器学会

事務局：明治大学博物館 島田和高

〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台 1-1

アカデミーコモン地階 電話：03-3296-4431

E-mail ma96018@mics.meiji.ac.jp

HP <http://www.soc.nii.ac.jp/jpra/index.htm>